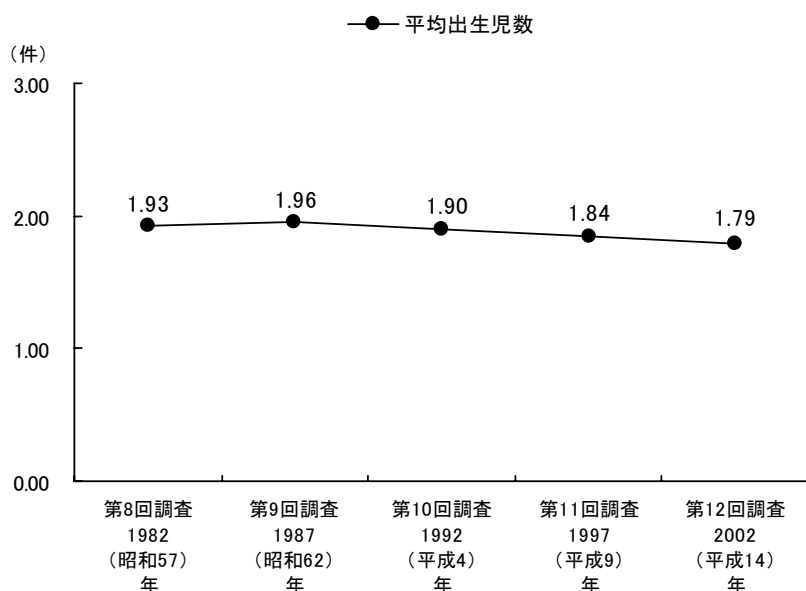


- 2 性と生殖をめぐる健康支援

全国の平均出生児数は横ばいに推移しており、平成14年は1.79人となっている。また、出生コホート別妻の出生児数の割合をみると、2人が最も多く平成14年は52.9%と過半数を占めている。

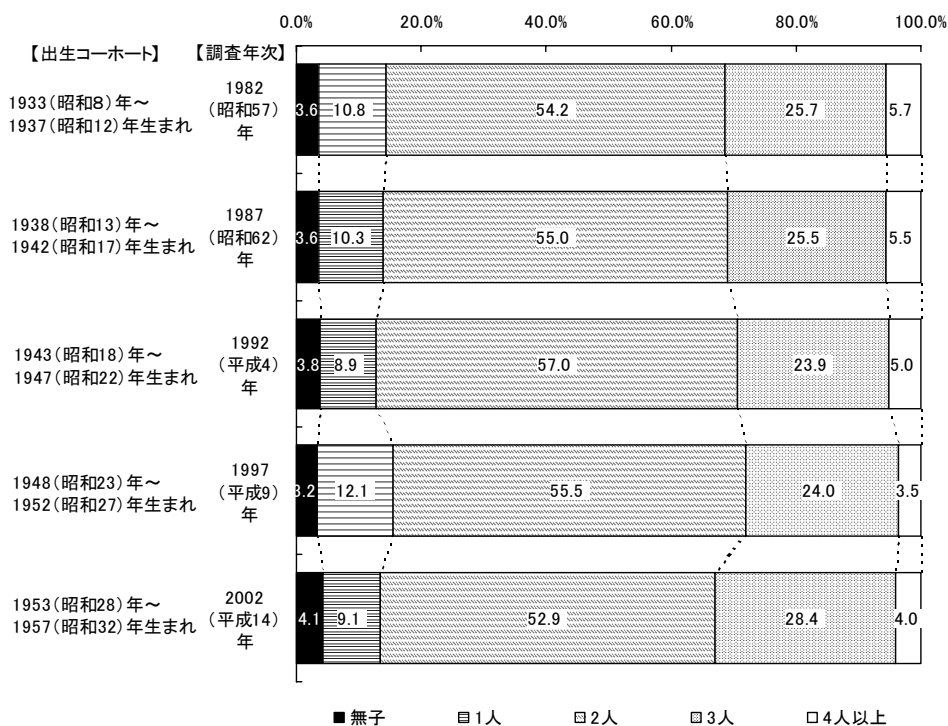
図表 - 2 - 1 平均出生児数の推移（全国）



注：各回調査とも妻が50歳未満の初婚どうしの夫婦について集計

資料：国立社会保障・人口問題研究所「出産力調査」及び「出生動向基本調査」

図表 - 2 - 2 出生コホート別妻の出生児数割合の推移（全国）

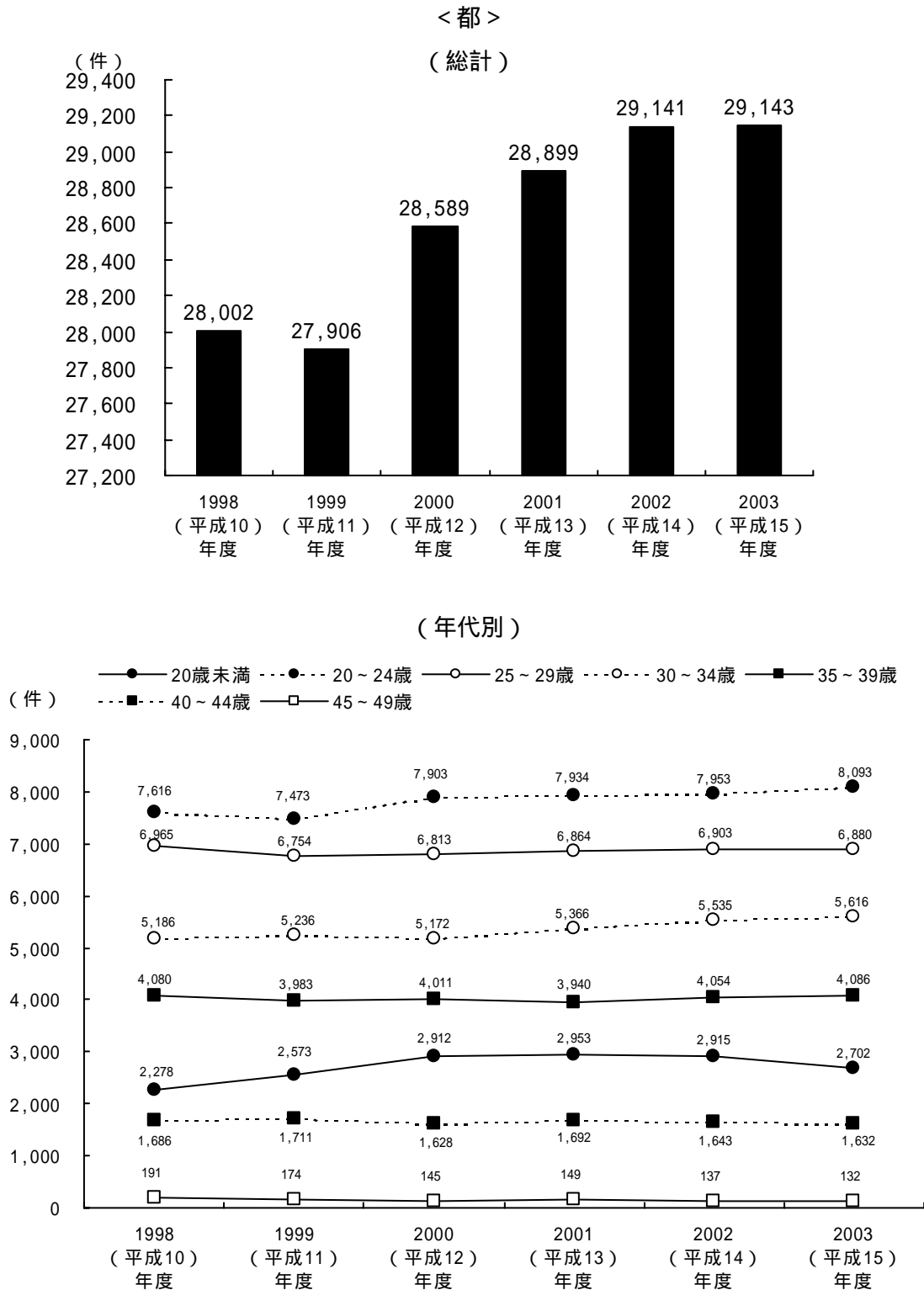


注：コホートとは、同一年生まれのことをいう

資料：国立社会保障・人口問題研究所「出産力調査」及び「出生動向基本調査」

平成15年度の東京都の人工妊娠中絶は29,143件で、平成12年度以降増加傾向にある。また、全国では319,831件で、平成14年度以降減少している。年代別では都・全国ともに20～24歳が最も多く、30～34歳については増加している。

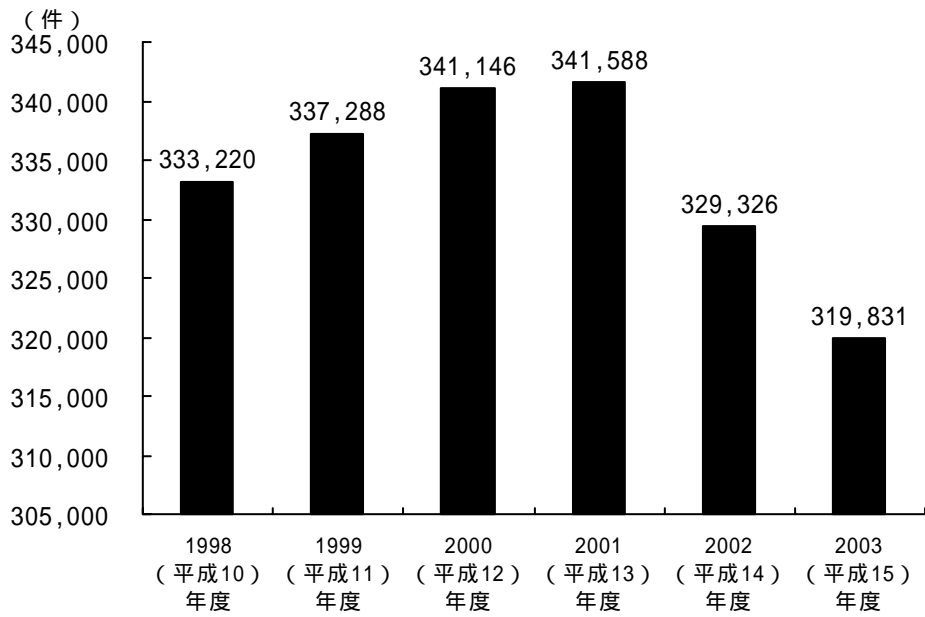
図表 - 2 - 3 人工妊娠中絶件数の推移（都・全国）



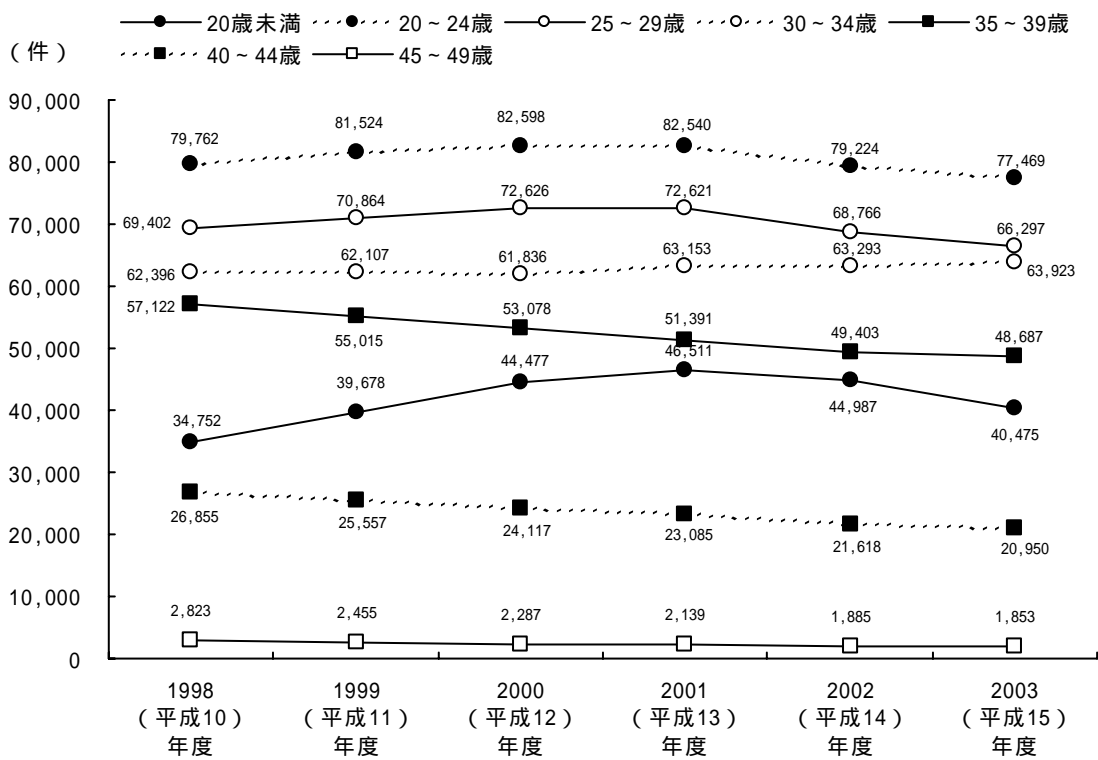
資料：厚生労働省「衛生行政報告例」2003（平成15）年

< 全国 >

(総計)



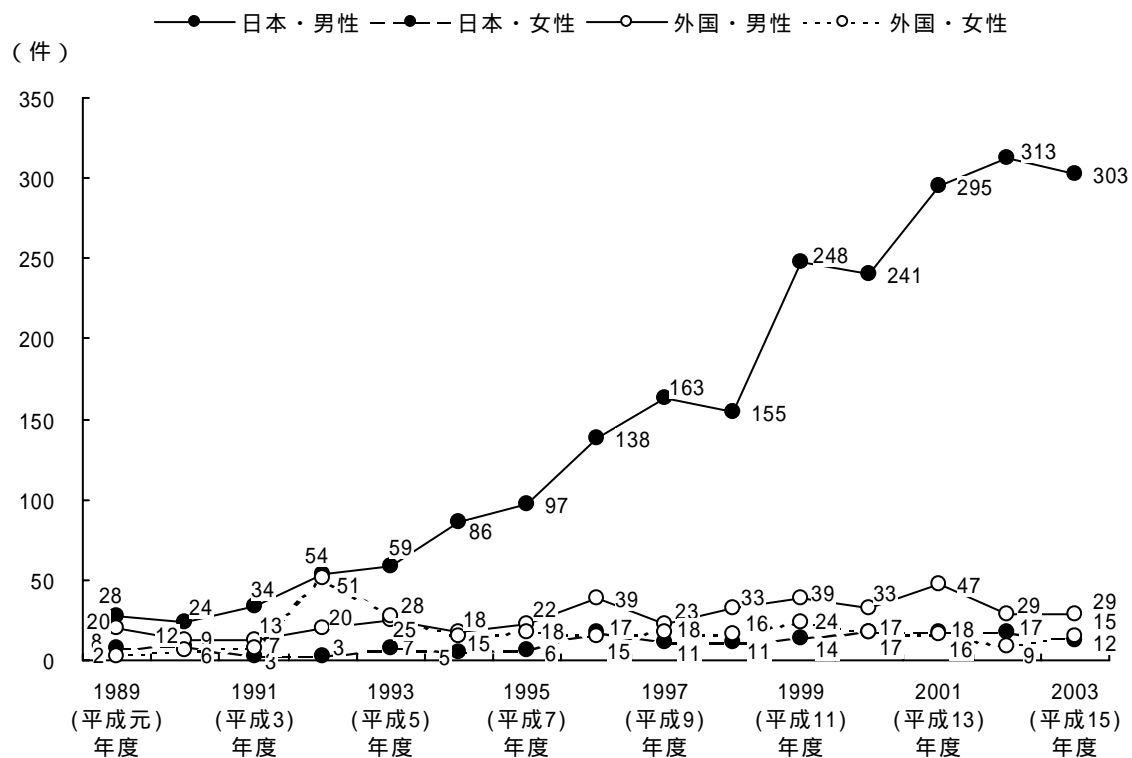
(年代別)



資料：厚生労働省「衛生行政報告例」2003（平成15）年

平成15年度のH I V感染者及びA I D S患者の報告数は日本男性が303件で、平成3年度以降大幅に上昇している。日本女性、外国男性、外国女性は横ばいとなっている。

図表 - 2 - 4 H I V感染者及び、A I D S患者の国籍別、性別報告数の年次推移（都）

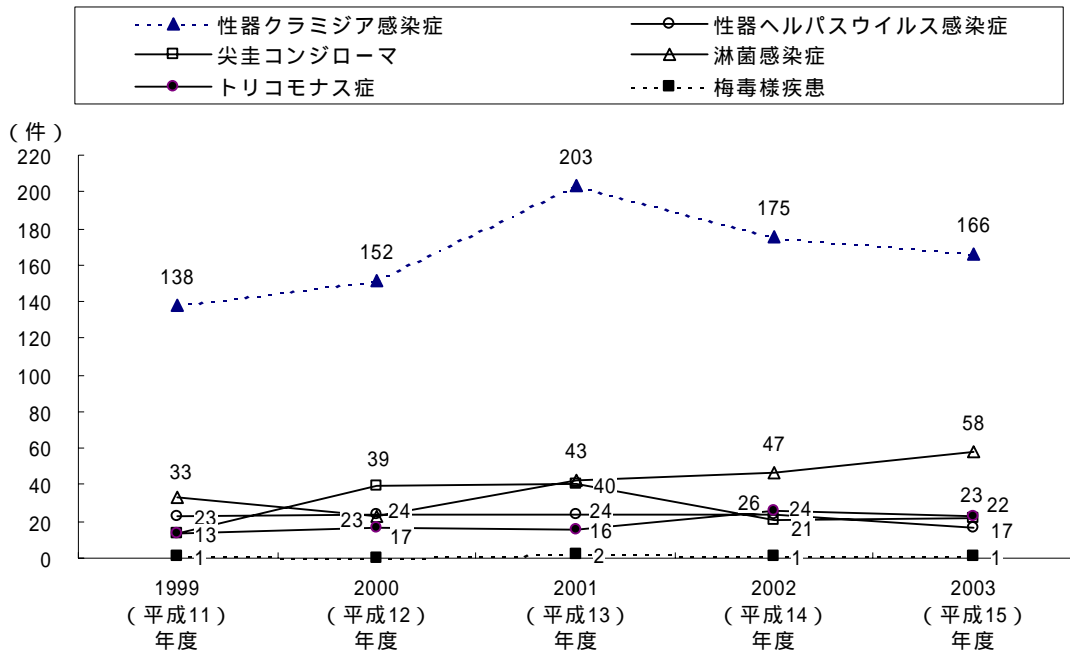


資料：東京都「東京都のH I V感染者及び、A I D S患者の動向及び検査・相談事業の実績」2003（平成15）年

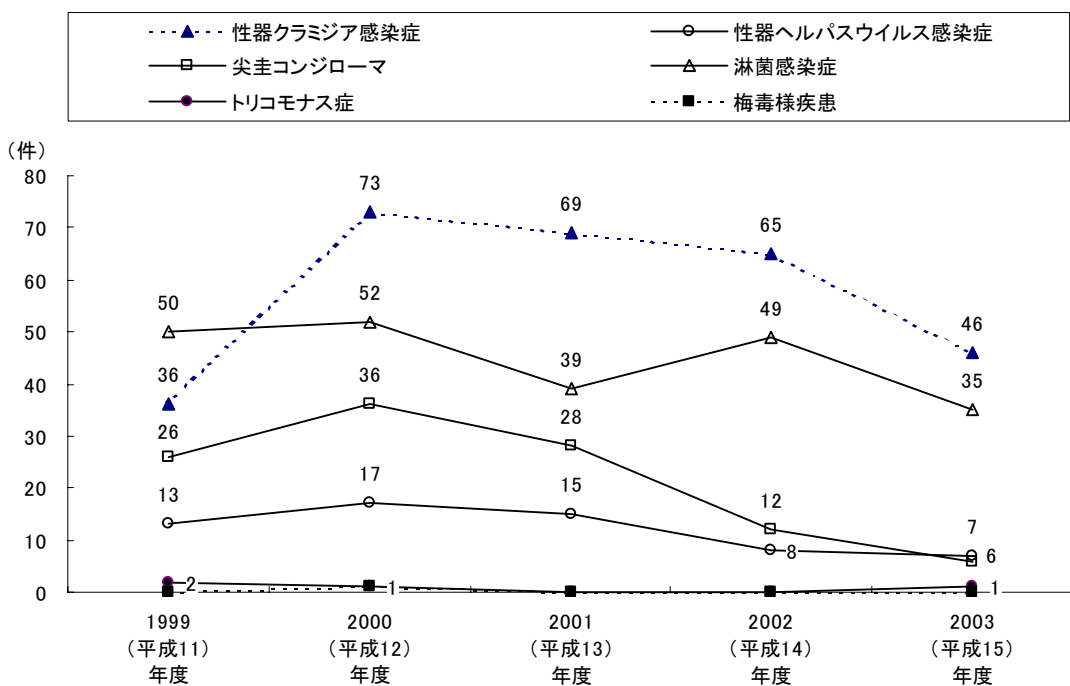
2001（平成13）年に200件を超えていた女性の「性器クラミジア感染症」は、2003（平成15）年には166件まで減少してきている。

図表 - 2 - 5 STD（性感染症）の患者数の推移 [10～19歳]（都）

（女性）



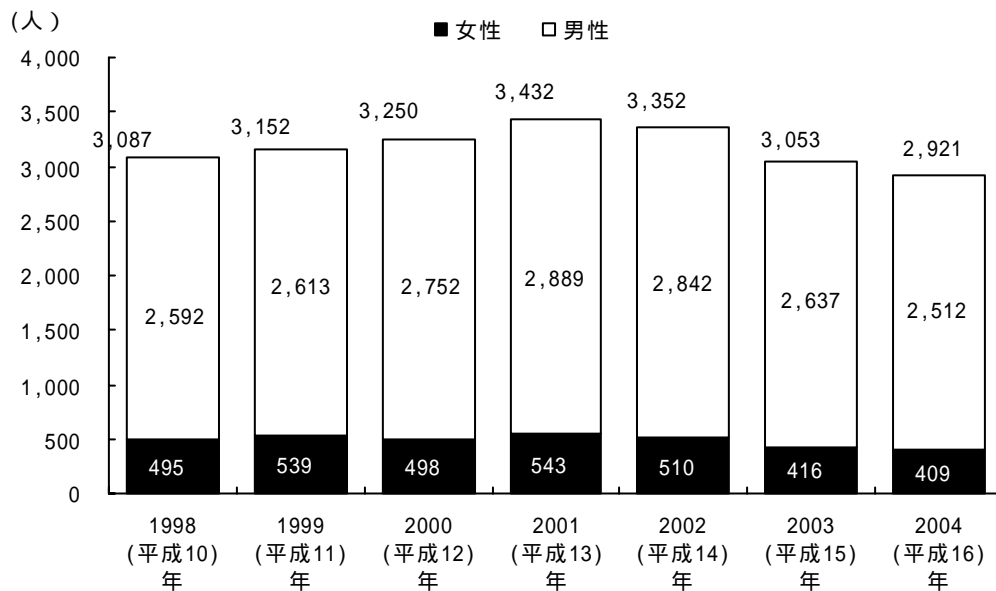
（男性）



資料：東京都福祉保健局「感染症発症動向調査事業報告」

薬物事犯の検挙数は年々減少しており、平成 16 年は 2,921 件と前年に比べ 4.3%減少している。内訳は女性が 14.0%、男性が 86.0%と圧倒的に男性が多い。

図表 - 2 - 6 薬物事犯の検挙状況（都）



資料：警視庁「薬物に関する統計」